

第7回ブラジリア日本祭り

藤村臨時代理大使挨拶（2018年5月5日）

ご来賓の皆様、そして日本を応援して下さっている全ての皆様、こんにちは。

「第7回ブラジリア日本祭り」が盛大に開催されることを大変嬉しく思います。そして、主催されている中西部日伯協会連合会のエルミニオ・スギノ会長、クニヨシ・ヤスナガ日本祭りコーディネーターをはじめ、本祭りの実施にご尽力されているすべての皆様にお祝いを申し上げます。

7年前にブラジリア日本語モデル校の一角で始まった「ブラジリア日本祭り」は、一昨年は約4万人、昨年は約5万人の参加者を集めました。本祭りが年々より多くの市民の皆様に愛され、ブラジリアの代表的行事の一つとして発展していることを本当に喜ばしく思います。

折しも、本年は日本人伯移住110周年という節目の年に当たります。日本から渡伯した方々・そのご子息は、これまで多くの試練を乗り越え、伯の発展に貢献するとともに、様々な形で日本文化を普及してこられました。こうしたことを背景に、現在伯には1万人以上を集客する日本祭りが36件もあるそうです。これは世界一と言ってよいでしょう。そのお陰で、和食、武道・太鼓・生け花・書道等の伝統文化、アニメ・マンガ等のポップカルチャーをはじめ、多様な日本文化が広く伯に根付いています。

今回のブラジリア日本祭りはこうした多様な日本文化を知って頂く本当に素晴らしい機会だと思えます。日本国大使館としても、日本酒の試飲会や日本留学の説明会を行うほか、国際交流基金の協力を得て、マンガのパネル展を実施したり、歌手のジョー・ヒラタさんに素晴らしい唄を披露して頂きます。

本祭りを通じてこの移住110周年という記念すべき年に日伯の文化交流がますます大きく盛り上がること、より多くの皆様が日本文化への親しみを持って頂くことを祈念して私の挨拶とさせていただきます。ムイト・オブリガード。

（了）